

栃木県 栃木市（森林経営管理制度に基づく間伐）

- ▶ 栃木市では、森林所有者の高齢化などにより手の行き届いていない森林について、土砂災害の危険が高まっていることから、令和2年度に意向調査を行い、森林環境譲与税を財源として市が主体となって経営管理権集積計画作成、現地測量、森林の整備を行っている。
- ▶ 令和4年度においては、星野地区において4.35haの計画策定、2.77haの間伐を実施した。

□ 事業内容

1 森林所有者への意向調査の実施（令和2年度）

- 長期に渡って森林整備が実施されておらず、市が自ら森林整備を実施する必要性が高い箇所において意向調査を実施。所有者に対し、森林の経営管理の意向調査を実施。

【実績】意向調査面積 約42ha

2 経営管理権集積計画（委託）

- 意向調査の結果及び人工林の有無を確認して、森林経営管理権集積計画の作成範囲を絞り込み、対象範囲の所有者に対して説明をし、同意を取得。

【事業費】803千円（全額譲与税）

【実績】集積計画作成面積 4.35ha

3 森林整備の実施（委託）

- 森林経営権を設定した私有人工林2.77haについて、市による間伐の森林整備を実施。

【事業費】1,832千円（全額譲与税）

【実績】森林整備面積 2.77ha



（森林整備後の状況）

□ 事業のスキーム

1 森林所有者への意向調査



2 経営管理権集積計画



3 森林整備



□ 工夫・留意した点

- 意向調査の実施にあたり職員による直営で行ったことで大幅な経費削減に繋がった。
- 正確な所有者情報の把握のため、固定資産課税台帳を森林GISに重ねることにより整理した。
- 今回はモデル地区として事業を実施した。今後の円滑な事業運営に役立てたい。

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：30,398千円		②私有林人工林面積（※1）：3,541ha
③林野率（※1）： 25.3%	④人口（※2）： 155,549人	⑤林業就業者数（※2）： 21人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

栃木県 栃木市（ナラ枯れ被害緊急対策事業）

- ▶ 栃木市では、令和2年10月に市南部の森林でナラ枯れ被害を初めて確認した。
- ▶ ナラ枯れ被害の防除対策を支援することにより、その被害拡大を防止し、森林の持つ公益的機能を持続的に発揮させる。
- ▶ 令和4年度は、被害が市の北部を除き拡大し、県の方針に変更に合わせて、ナラ枯れが原因の倒木による人的被害やインフラ被害等が懸念される被害木を中心に357本の選択的防除を実施した。

□ 事業内容

被害木駆除

- 市職員による巡回や県のドローンによる広域調査、市民や森林所有者による通報を基に現地調査を実施し、ナラ枯れが原因の倒木による人的被害や家屋等の損壊、道路等のインフラ設備への被害が懸念される被害木441本の駆除（伐倒くん蒸、立木くん蒸等）を市の直営及び補助を活用して森林所有者が実施した。

【事業費】19,695千円（内、譲与税7,896千円）

【実績】駆除357本（357㎡）



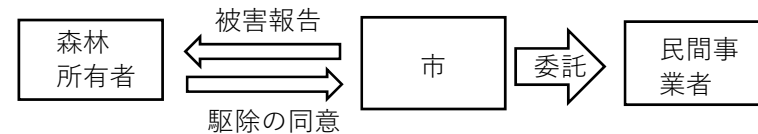
（被害の状況）



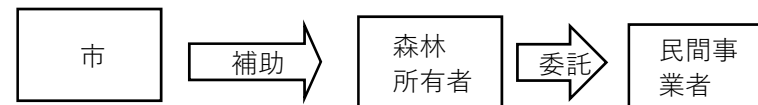
（くん蒸の状況）

□ 事業のスキーム

1 市直営による駆除



2 森林所有者による駆除



□ 工夫・留意した点

- ・現地調査を職員による直営で行ったことで大幅な経費削減に繋がった。

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：30,398千円	②私有林人工林面積（※1）：3,541ha	
③林野率（※1）：25.3%	④人口（※2）：155,549人	⑤林業就業者数（※2）：21人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 森林環境譲与税を活用し、木の持つやさしさやぬくもりを再確認してもらい、木材利用促進や木の魅力の普及啓発に寄与することを目的に関係部局と連携し木製品の設置を行っている。
- ▶ 令和4年度においては、以下の取組により、小学校や市内メインストリートに県産材の木製品を設置し、木の魅力を多世代にアピールした。
 - ・ 市立小学校3校に木製の学習机と椅子セットを配備した。
 - ・ 駅前通りに設置されているキュービクル（地上受電設備）4基に木製カバーを取り付けた。

□ 事業内容

1 木製机椅子設置事業

- ・ 県産材の学習机と椅子を市立小学校3校に設置。
子どもたちに木の魅力を伝え、木に親しむ心を醸成する。
- ・ 教育委員会と連携。

【事業費】3,622千円（全額譲与税）
（譲与税は、備品購入費に充当）

【実績】89セット

2 キュービクルカバー設置事業

- ・ 市のメインストリートである駅前通りに存するキュービクルに県産材の木製カバーを取り付け、街並みの調和を図るとともに、木の持つやさしさで街ゆく人への癒し効果が得られる。
- ・ 観光振興課と連携。

【事業費】1,736千円（全額譲与税）（譲与税は、製作設置委託料に充当）

【実績】4基

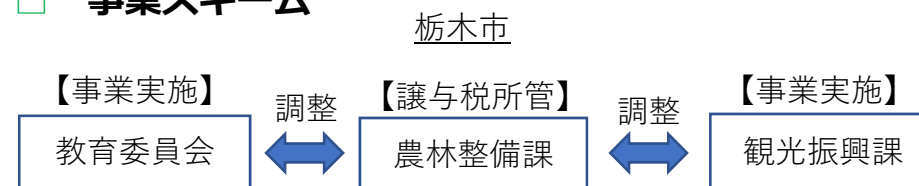


(1 木製机)



(2 キュービクルカバー)

□ 事業スキーム



□ 工夫・留意した点

- ・ 1の事業は、備品更新計画に合わせて木製化することで、効率的に事業の効果が得られるよう配慮した。また、子どもに木の魅力を身近に感じてもらう、木に親しむ心を育むとともに将来木に携わる人材の育成につながることを期待している。
- ・ 2の事業は、多くの市民や観光客の目に留まるよう、市のメインストリートを選定し、観光案内地図を取り付け事業の効果が高まるように配慮した。

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：30,398千円		②私有林人工林面積（※1）：3,541ha
③林野率（※1）： 25.3%	④人口（※2）： 155,549人	⑤林業就業者数（※2）： 21人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 栃木市では、森林環境譲与税を活用し、未来を担う子どもたちに森林の有する多面的機能や林業に対する理解と関心を深めてもらうことを目的に林業体験教室や間伐材を利用した木工教室等を実施している。
- ▶ 令和4年度においては、木工教室、特用林産教室、ホタル幼虫放流会を実施した。

□ 事業内容

林業体験教室（令和4年8月2日）

- ・ 小学6年生を対象にしたプランターづくり教室を開催。
- ・ 指導、補助者として市林業振興会会員やみかも森林組合が協力。

【事業費】 29千円（材料費及び保険料、全額譲与税を充当）

【実績】 小学6年生15名が参加



（左：作業の様子）

（右：完成品）

水とみどりのふれあい体験活動（令和5年2月11日）

- ・ 子どもと保護者を対象にしたプランターづくり、特用林産教室(なめこ駒打ち)、ホタル幼虫放流会を開催。
- ・ 指導、補助者として市林業振興会会員やみかも森林組合、地域住民が協力。

【事業費】 67千円（材料費及び保険料等、全額譲与税を充当）

【実績】 9家族29名が参加



（左：なめこ駒打ち）

（右：ホタル幼虫放流）

□ 取組の背景

- ・ コロナ禍により体験活動を抑制されてきた子どもたち
- ・ 本市林業就業者数の減少

□ 工夫・留意した点

- ・ 森林の魅力をより感じてもらうため、山間部の小学校や市有施設を会場に設定した。
- ・ 林業体験教室では例年、間伐体験を実施しているが、ヤマビル被害や熱中症の懸念があることから、屋内で木工教室を実施した。

□ 取組の効果

- ・ 子どもたちが林業関係者や地域住民と交流することで社会性を育む場を提供できた。
- ・ 後日、参加者より「子どもがきのこを食べるようになった」との感謝の声をいただいた。
- ・ 人が生きていく上で森林や林業が大きく関わっていることに気づききっかけづくりができた。

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：30,398千円	②私有林人工林面積（※1）：3,541ha	
③林野率（※1）：25.3%	④人口（※2）：155,549人	⑤林業就業者数（※2）：21人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より